

神風



神風それは現代社会への警告だ。

フランスファンタスティック映画の三ツウエーブリック・ベソンが贈るSFサスペンス



リチャール・ポーランジェ/ミッシェル・ガラブリユ/ドミニク・ラバナン/リトン・リブマン/キム・マス/アーリー・クルバン/ロマン・ポーランジェ
製作リュック・ベソン/監督ティエ・グルッセ/脚本ミッシェル・アルベルスタット/撮影ジャン・フランソワ・ロバン/美術ダン・ウエイル/グラフィックジャン・フランソワ・アンリ/音楽エリック・セラ
提供 VHS/DVD 株式会社エスピーエス 配給 株式会社ウェストゲートコーポレーション (C)
東京国際ファンタスティック映画祭参加作品

KAMIKAZE

解説

アメリカ映画とは少し違った、ちょっとオシャレでかつ非常にアクの強いフランス・ファンタスティック映画の傑作。

プロデューサーは、「最後の戦い」のリュック・ベッソン。彼はフランスに長い間待ち望まれていた、ファンタスティック映画のニュー・ウェーブを巻き起こした人間だ。

監督のディディエ・グルッセはこの作品が処女作。彼はベッソンの第一作「最後の戦い」と第二作「サブウェイ」の助監督だった。リュック・ベッソンはフランス映画界においてスビルバーグの役割を担おうと、自分の成功を映画会社に対する信用にして、若い才能の育成にも力を入れ始めているのだ。

ベッソンが子供と遊んでいた時、オモチャのピストルでTVの画面を打ったら、単なる偶然なのにキャスターがくしゃみをして謝った。まるで自分が打ったことが原因だった気がして、本当にブラウン管を通して電波を逆流させTVのスタジオにいる人を殺せたらと、思わず空想してしまったのだ。

彼は「サブウェイ」の撮影中に、助監督のグルッセと、このアイデアを映画化できないものかと相談していた。そこに撮影現場を見学していた、人気女性映画ジャーナリスト、ミッシェル・アルベルスタッドが「その話は絶対面白い！」と大いに興味を持ちふたりに映画化をけしかける。そしてマスコミ界に詳しい彼女が、TV文化に対するブラック批判寓話として、シナリオまで書くことになってしまったのだ。もちろんアルベルスタッドにとっては初めての脚本。フランスにも遊び感覚による映画作りの世代が育っていることがよく判る。

撮影は「ペティブルー」のジャン・フランソワ・ロバン、神風的(?)狂気の発明家を演じているのは「Mr.レディ、Mr.マダム」のフランス映画界大ベテラン男優ミッシェル・ガラブリュである。



〈スタッフ〉

製作 ●リュック・ベッソン
監督 ●ディディエ・グルッセ
脚本 ●ミッシェル・アルベルスタッド
音楽 ●エリック・セラ

〈キャスト〉

ロマン ●リシャール・ポーランジェ
アルペール ●ミッシェル・ガラブリュ
ローラ ●ドミニク・ラバナン

提供: 株式会社オーティオ ビジュアル ネットワーク
配給: 株式会社エフ・フォー・コレクション

ストーリー

初老の科学者アルペールは、電子工学、コンピュータの分野において天才的な頭脳を持ち主である。しかし、その排他的な性格と奇妙な言動から、誰にも理解されることなく、ある日、突然、長年働いていた研究所をクビになる。

アルペールはパリに近い郊外の屋敷に、甥とその女友達の3人で暮らしていた。しかし、彼は同居人達には心を開かず、2階の研究室を立ち入り禁止にして閉じ籠もり、その唯一のはげぐちをテレビの画面に求める。美しく誘惑的な女性タレントも、評論家ぶるニュース・キャスターも、彼の凄まじい憎悪的となり、彼はテレビを揺さぶり、侮蔑の言葉を浴びせる。やがて、それでは我慢の出来なくなった時、彼の狂気は、偉大なる天才である自分をこみくずのように葬りさった社会に復讐すべく、恐ろしい発明へと向かっていった。

ある日、生放送中の女性キャスターが突死をとげる。生放送で視聴者の目にも写ったその死体は、まるで腹部を直撃されたようだが、弾痕は見つからず、事件現場にも何のトリックも凶器も発見できなかった。それが、不可解な自然死とかなづけられようとした時、また同様の事件がおき、テレビ局はパニックに陥る。腕利き刑事ロマンが、事件解明のため、呼び出された。彼もまた、大変優秀な刑事であったが、組織に支配されるのを嫌う一匹狼で、妻にも逃げられ、10歳の娘との二人で暮らしていた。表面は短気だが、刑事としての感は鋭く、心の底は暖かく、センチメンタリストでもあった。彼を起用したのは、文化省次官ローラである。才気にあふれ、もの静かだが、ここぞという時には、タフで勇敢な一面を見せる女性である。二人は互いにひかれるものを感じる。しかし、ロマンの暴走を恐れた政府は、彼を捜査から下ろす。そこへ、第三の事件が発生した。事件の解明に苦しんだ政府は、不本意ながらも、再びロマンに全権を預けるしかなかった。

ロマンは、様々なデータ分析と持ち前の直感から、次々と起こる不可解な事件に対して、ある推測にたどりつく。誰かがテレビの画面を標的に殺人を行っている。

とりあえず、全ての生放送を中止するよう指示したロマンはその推理を立証すべく、ヨーロッパ中の一流科学者を集め、3日間という短いタイムリミットの内に犯人のあぶりだしと反撃の方法を探ろうとする。そして、ついに対決の時はいきた…。

